

# 第 24 回 木津川上流河川環境研究会 議事要旨

## 【開催概要】

開催日時： 平成 26 年 3 月 12 日(水曜) 15:00～18:00  
開催場所： メルパルク京都 4階 「研修室4」

## 【出席者】

委員： 6名  
事務局： 木津川上流河川事務所 5名  
オブザーバー： 水資源機構関西支社 2名  
木津川ダム総合管理所 2名

## 【議事次第】

1. 開 会
2. 挨拶
3. 議 事
  - (1) 本年度の調査・検討経緯の確認
    - ・ 前回 第 23 回研究会等指摘対応について
    - ・ 平成 25 年度 出水概況 (H25.9 台風第 18 号) について
  - (2) 堰・魚道 連続性再生検討
    - ・ 縦断連続性再生検討： 本年度の調査・検討結果と今後の方針
    - ・ 横断連続性再生検討： 本年度の調査・検討結果と今後の方針
  - (3) 河道内樹林管理検討
    - ・ 本年度の調査・検討結果と今後の方針
  - (4) 水量・水質検討
    - ・ 本年度の調査・検討結果と今後の方針
  - (5) その他
    - ・ 次年度の予定について
4. 閉 会

## 【配付資料】

- ◆議事次第 / 席次表
- ◆資料 1： 第 23 回木津川上流河川環境研究会等 指摘対応
- ◆資料 2： 堰・魚道 縦断連続性再生検討 資料
- ◆資料 3： 堰・魚道 横断連続性再生検討 資料
- ◆資料 4： 河道内樹林管理検討 資料
- ◆資料 5： 水量・水質検討 資料
- ◆資料 6： これまでの検討経緯と今後の検討方針 (案)
- ◆参考資料：平成 25 年度 出水概況 (H25.9 台風第 18 号)
- ◆参考資料：木津川上流河川環境研究会 設立趣意・規約

## 【審議内容】

### (1) 研究会等の開催結果の確認

事務局より、今年度の研究会等の開催結果、今年度の研究会（第23回）、各WGにおける指摘の確認と、その対応方針について説明を行った。

- ・研究会の議事録については、開催後できるだけ速やかに公開していくことが望ましい。

### (2) 堰・魚道 連続性再生に関する本年度検討結果

事務局より、堰・魚道 連続性再生検討に関する本年度検討結果について説明を行った。議事の内容は以下の通りであった。

- ・高岩井堰については、近隣にやなせ宿というよい拠点があるため、活用・連携するなどし、活性化が図れるとよい。また、市街地にも近いため、今後の展開に期待する。
- ・大河原発電所井堰、相楽発電所井堰魚道の適切な運用や簡易改良に向けて、堰管理者への指導・助言は、今回で終わらず、繰り返し・継続的に行っていくことが重要である。
- ・ナルミ井堰魚道では、関係者の関心や協力度が高まってきているため、継続的な運用に向けて、働きかけていってほしい。

### (3) 上野遊水地 横断連続性再生に関する本年度検討結果

事務局より、上野遊水地の横断連続性再生に関する本年度検討結果について説明を行った。議事の内容は以下の通りであった。

- ・遊水池の環境改善の実施について地域住民の理解を得るためには、どのような整備が、どのような好影響を魚類等に与えるかといったことを、根拠を示しながら、長期的に説明していく必要がある。
- ・意見交換会等を開催するなどし、整備内容のイメージ図を示しながら、地域との合意形成を図っていくのがよいのではないかと。
- ・遊水地見学会はよい取り組みである。子どもたちへの啓発活動は重要であるため、今後も内容の充実を図りながら、継続していってほしい。
- ・参加証を出すことも参加者の意欲向上に有効であるため、検討すると良い。
- ・地域活動への参加は、小学校は多いが、中学校・高等学校へとつながっていないことが課題である。

### (4) 河道内樹林管理検討に関する本年度検討結果

事務局より、河道内樹林管理検討に関する本年度検討結果について説明を行った。議事の内容は以下の通りであった。

- ・モウソウチクは人の利用や食用として利用されやすいが、マダケについてはあまり利用されないのではないかと。
- ・有効な伐採手法について結論づけるにはまだ早く、今後もモニタリング調査を継続し、効果を確認していく必要がある。
- ・タケ類を根絶するのは困難であると認識し、どのように折り合いをつけていくかを検討していくことが有効ではないかと。
- ・メダケの伐採手法についての知見がないため、今年度実施したメダケの伐採箇所において次年度にモニタリング調査を実施することは有効であり、結果が期待される。

- ・ 1 m伐採後に残置されたタケ類は、人力で倒伏させることは困難であった。次年度以降、どうなっていくのか継続的に把握してほしい。
- ・ 他河川でも活用できるよう、これまでの調査・検討からわかったことや、モニタリングを継続して解明すべき点などをとりまとめていってほしい。

#### (5) 水量・水質に関する本年度検討結果

事務局より、水量・水質検討に関する本年度検討結果について説明を行った。議事の内容は以下の通りであった。

- ・ 今年度の検討の結果、環境基準を満たしていることを確認した。これを受け、今後も定期点検・監視を続け、課題が確認された場合には WG で対応を検討していく方針とすることを了解した。

#### (6) その他

事務局より、来年度の予定について説明を行った。

以 上